

ご近所の お医者さん

273

藤谷クリニック理事長 藤谷宏子さん＝天王寺区

小児の食物アレルギー

「食物アレルギーがあります」と伝えると、多くの方は、意識障害などを起こすアナフィラキシーショックのことを思い浮かべ、心配されます。たしかに、アナフィラキシーショックは重症のアレルギー反応ですが、ほとんどの食物アレルギーは安全にコントロールできますので、安心してください。



一人一人に合った治療を

状態▽くしゃみ、鼻水、鼻づまりのよう「鼻症状」——などがあります。重症なものでは、腹痛、嘔吐、下痢などの「消化器症状」、せきや呼吸の際にゼーゼーといった音がする喘鳴などの「呼吸器症状」とさまざまです。最重症でアナフィラキシーショックが出現します。

いくことが大切です。アナフィラキシーショックを起こした時は基準に従い、アドレナリン注射を打ちます。医療機関以外で使用するアドレナリン自己注射は「エピペン」と呼ばれ、必要ならは登録医が処方してくれます。

精神的なケアも大切です。最近、食物アレルギーの話題が頻繁に取り上げられます。うわさや不確かな情報も多いですが、振り回されず、正しい知識を持つことが必要です。主治医の先生と相談し、「テラーモードの治療」をしていただきたいと思います。

「食物アレルギーで引き起こされる症状は▽唇が腫れたり、口の中がイガイガかゆくなったりする▽口腔咽頭症状▽皮膚がかゆくなったり、じんましんが出る▽皮膚症

現在のアレルギーの治療は「正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去」が原則です。必要最小限の除去とは、食べると症状が現れる食物だけを除くことであり、「心配だから」念のために」との理由では除去しません。薬なども組み合わせ、上手に治療して

さで、原因食物を除去することの治療は、ほとんどの場合、一生続くわけではありません。統計では3歳までに50%、小学生になるまでに80〜90%が食べられるようになります。治療中は、栄養管理や成長のチェックが必要です。周囲の人に

さず、つらい思いをすることもありませんので、心のサポートや